

令和5年度学校努力点
名古屋市立白水小学校

自ら学び続ける白水っ子を目指して
～学習課題をつかむことにつながる振り返り活動を工夫して～

令和5年度 努力点推進計画（案）

主題 自ら学び続ける白水っ子を目指して ～学習課題をつかむことにつながる振り返り活動を工夫して～

1 主題について

昨今は、「なかまとの対話を大切にした主体的な学び」に重点が置かれている。主体的な学びを実現するためには自分の学びの姿を客観的にとらえることが大切だと考えられている。自分の学びを客観的にとらえることで、次の学びに向かうきっかけを得ることになり、自ら学び続けることにつながる。

本校では、2年間「自ら学び続ける白水っ子を目指して」という主題で授業研究に取り組んできた。その中でも、1年目は「振り返り活動に重点を置いて」、2年目は「単元目標に迫るための振り返り活動を工夫して」と焦点を絞った研究に取り組んだ。振り返り活動を始めた1年目では、1時間の中での自分の活動を振り返り、次の時間のめあてを考えようとする姿を見ることができた。2年目では、常に単元のゴールを意識して振り返り活動を行うことで、単元のゴールを意識して次の学習のめあてを考える姿を見ることができた。その過程の中で学びを深め、自分の成長を実感しながら学びを深めていく姿を見ることができた。

そこで、今年度は2年の研究を踏まえて、今まで以上に自ら学び続ける白水っ子を育てていきたい。そのためには、各学年の子どもの自ら学ぶ姿について教師が明確なイメージをもち、授業を行うことが必要であると考えます。

そこで、それぞれの部会の目指す姿を次のようにする。

低学年…学び方を知り、めあてに向かっているかを振り返りながら、次時の学習課題を考えることができる。
中学年…単元の中でめあてに沿った学びの計画を立て、めあてに向かって学習が進んでいるかを振り返りながら学ぶことができる。
高学年…一人一人がめあてに向かうための学びの計画を立て、振り返りを通して計画を修正しながら学ぶことができる。

各部会の目指す姿から各学年の子どもの「自ら学び続ける姿」を明確にして、年間を通した学習計画を構成する。そうすることで、子どもは学習課題をつかみやすくなり、単元の学習に見通しをもって取り組み続けることができる。今年度の努力点研究を通してより自ら学び続ける白水っ子を育てることにつなげていきたい。

自ら学び続ける白水っ子					
低学年の目指す姿		中学年の目指す姿		高学年の目指す姿	
学び方を知り、めあてに向かっていることを振り返りながら、次時の学習課題を考えることができる。		単元の中でめあてに沿った学びの計画を立て、めあてに向かって学習が進んでいるかを振り返りながら学ぶことができる。		一人一人がめあてに向かうための学びの計画を立て、振り返りを通して計画を修正しながら学ぶことができる。	
1年生の 目指す姿	2年生の 目指す姿	3年生の 目指す姿	4年生の 目指す姿	5年生の 目指す姿	6年生の 目指す姿
★	★	★	★	★	★

目指す姿を明確にする

1年生の目指す姿		
前スライドで記入したものをコピー		
1学期で目指す 具体的な姿	2学期で目指す 具体的な姿	3学期で目指す 具体的な姿
単元名	単元名	単元名

目指す姿から学習計画を構成する

2 研究の方法

(1) 実践対象

- ① 全学年・全学級で授業実践を行う。低学年 生活科 中高学年 総合
いずみ 生活関連学習 総合
- ② 授業実践を行い変容について検証する。学年で同一単元でもよい。
昨年度の実践を踏襲し、改善していく取り組みでもよい。
- ※ 部会シートと授業づくりシートと振り返りシート、本時の略案を作成する。
- ③ 部会で事前検討会と事後検討会を行う。

(2) 検証の方法

振り返りシートの記述内容を分析する。各部会の目指す子どもの姿に迫ることができているかを検証する。

記述の例

事実

- ・学習内容や新しく分かったこと分からなかったことを記述しているか。

気づき

- ・友達の考えと自分の考えを比べて、共通点や相違点を記述しているか。
- ・学習したことから課題や自分自身のことについて新たな気づきを記述しているか。

次時について

- ・新たな疑問や課題をもとに次にやってみたいことを記述しているか。

(3) まとめの方

1月の全体会の場で子どもの変容や有効だった手だてを共有する。
レポートはパワーポイントで、学年ごとに作成する。

(4) 研究の進め方

授業者 【】 は手立て	【部会メンバー】
①年間計画を考える	部会(学年)ごとの目指す姿を考え、部会シートにまとめる。
②単元計画を立て、授業づくりを行う。 【授業づくりシートの作成】	事前検討会で、授業づくりシートを完成する。
③子どもの振り返りの内容を予想する。 【学びの振り返りシートの作成】	事前検討会で、子どもの振り返りの内容を予想し、振り返りシートを作成する。
④授業の実践及び評価 【フィードバック】	子どもの様子を観察し、分析する。
⑤次時に向けて子どもの学習改善の指導・支援を行う。 【フィードバック】	事後検討会を開き、子どもの振り返りシートを基に、変容を分析する。
⑥授業改善のために、毎時/単元終了後に単元計画の修正・追加・改善策を記す。 【授業作りシートの修正・追加・改善】	事前検討や事後検討の記録をパワーポイントでとり、T e a m s で共有する。まとめの際にこれを活用する。

3 研究の手立て

(1) 【授業づくりシート】：資料1

部会ごとに具体的な目指す子どもの姿を想定し、そこから逆向きに単元の指導計画や各時間の指導計画を構想するシートを作成することで、主体的に子どもが学ぶことができるような指導・支援を行っていく。

(2) 【学びの振り返りシート】：資料2

子ども自らが学び続ける姿に迫るためには、子ども自らが学びのプロセスを客観的に捉えることができ、次の学習ではどのようなことをしたいかを考え、調整できるようになるということが重要な要素である。そこで、単元の学びを通して、自分の考えを自身の言葉でつづりながら捉えていく振り返りシートを作成する。子どもの記述から部会(学年)で定めた目指す子どもの姿に迫っているかを見取る。

(3) 【子どもへのフィードバック】

学びの振り返りシートの記述内容を基に、子どもの学習状況を把握する。朱書きや言葉かけ、全体への紹介などを通して、具体的な支援策を提示し、子どもが主体的に学ぶようにする。